



日本平滑筋学会ニュースレター

No.3

2009.12.10

発行所: 日本平滑筋学会事務局
 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
 東北大学病院胃腸外科内
 TEL:022-717-7205, FAX: 022-717-7209
 E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp
 HP: http://www.soc.nii.ac.jp/jsmr
 発行責任者: 佐々木 巖
 編集者: 高木 都 印刷: 笹氣出版印刷(株)

星薬科大学・鎌田教授が第53回総会(2011年)を主催

さる7月に開催された日本平滑筋学会理事会・評議員会・総会にて、2011年に開催される第53回日本平滑筋学会総会は、星薬科大学・鎌田教授のもとで開催されることに決定しました。鎌田教授から開催にあたってのメッセージを頂戴しましたので掲載致します。

第53回日本平滑筋学会を開催するにあたって

星薬科大学医薬品化学研究所・機能形態研究室 鎌田勝雄

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、日本平滑筋学会主催「第53回日本平滑筋学会」の会長を拝命し、関係各位の先生方に厚く御礼申し上げます。本学会は、1959年8月に平滑筋電図研究会として発足し、1962年より日本平滑筋学会と改名され、今回で53回目の開催となる伝統的な学会であります。星薬科大学と致しましては、1986年に第28回日本平滑筋学会が粕谷豊先生会長のもと執り行われ、その当時のことを懐かしく思い、この伝統的な素晴らしい学会を御世話させていただくことに、たいへん感銘を受けております。本学会は、平滑筋研究という壮大なテーマのもと、臨床および基礎研究者が一堂に会して熱い討論を交わす非常に貴重な場であり、今回、皆様の御世話をさせていただく機会を得ましたことは、私どもにとりまして、大変光栄なことであります。

近年の生命科学の急速な発展には目を見張るものがあり、平滑筋研究においてもその一翼を担う重要な分野の一つであります。今後、高齢化社会が進むにつれ平滑筋研究の重要性はますます増大し、平滑筋研究者の果たす役割と使命はいよいよ大きなものになることが予想されます。このような背景のもと、今回は特別講演と致しまして、平滑筋研究の第一線で活躍されております、University of California, San Diego, Department of MedicineのJason X.-J. Yuan博士にKv channels/apoptosis, TRP channels/proliferation, pathogenic mechanisms of pulmonary arterial hypertension(仮題)という内容でご講演いただく予定であります。例年の様に、皆様より平滑筋研究分野の研究発表を数多く頂けるものと思っておりますが、本学会が平滑筋を中心とする生体機能や病態の解析から新たな治療法の開発にどのように結びつけていくかについて臨床及び基礎的観点から考える良い機会になればと期待しておりますので奮って演題をお申し込み下さい。

現時点では、具体的な日時、場所が確定しておりませんが、平成23年の夏に東京で開催させていただく予定であります。最後になりますが、本学会を有意義なものとするため、多数の先生方のご参加と活発なご討論をお願い申し上げます。

ジャーナル@カイクへ採択される!

独立行政法人 日本科学技術振興機構では平成17年度から日本国内の学術誌の国際発信力強化と重要な知的財産の保存等を目的に、論文等の電子ジャーナル化を進めております。この度、日本平滑筋学会が刊行しております機関誌2誌(Journal of Smooth Muscle Research, 日本平滑筋学会雑誌)を平成21年度の対象候補誌として応募いたしましたところ、両誌とも採択されました。電子ジャーナル化されるのは、創刊号からこれまで刊行された雑誌まで、全てを含みます。平成9年(1997)に和英両誌に分けられました折に、英文誌の内容はJ-STAGEで公開され現在にいたっておりますので、PubMedなどの国際的データベースなどを介して会員外の方々にも読んでいただけますし、また和文誌・英文誌ともに国立情報学研究所が管理しております電子図書館(NII-ELS)で公開しております。しかし平成8年以前に刊行されました雑誌につきましては、編集部で原本を保存しておりましたが、今回の採択により、創刊号以降すべての雑誌に掲載された論文が電子ジャーナル化されることになりました。本学会の経営状態があまり良くないことは会員の先生方も御承知と思いますが、この度のことは全て科学技術振興機構の事業として行われますので、本学会の負担はごく軽微とのことです。

電子ジャーナル化事業を進めるにあたりまして幾つか問題がございましたが、中でもとりわけ重要なのは著作権の問題でした。Journal of Smooth Muscle Research(旧名: 日本平滑筋学会雑誌)は平成8年までは和英両文の論文等を掲載しておりましたが、当時の投稿規程に掲載論文の著作権の所在が明記されておませんでした。平成9年(1997)以降の刊行誌(Journal of Smooth Muscle Research 第33巻から; 和文誌)では、掲載論文等の著作権は日本平滑筋学会に所属すると明記してありますので問題はございません。電子ジャーナル化するには、全公開論文の著作権の所在が明確でなければならない規則になっているということで、会員の先生方には平成8年までの論文等の著作権を日本平滑筋学会に譲渡いただくようお願いしているところであります(p.2 Journal of Smooth Muscle Research(1-32巻)著者の方へ一著作権移譲をお認めください、およびホームページ、「著作権告知」を参照)。よろしく御判断くださいますようお願いいたします。

この度ジャーナルアーカイブに収録されるのは平滑筋研究に関連する項目のみに限定し、書評、学会や研究会の案内、雑感、総会報告、医学会ニュース等の平滑筋研究と直接関係の薄いものは割愛いたしました。そこで、これまで編集部で保管してまいりました日本平滑筋学会機関誌に含まれます学術的部分はほとんど不要となるかと思っておりますが、会員の皆様から「それ以外の部分も参照したい」という御要望がでた折に対応できるようにするため、創刊号以降の機関誌は今後とも編集部で保管することにいたします。引き続きご利用くださいますようお願い申し上げます。

Contents:	page
53回大会は鎌田教授が主催	1
ジャーナル@カイクに採択	1
関連: 著作権移譲をお認めください	2
51回総会および国際平滑筋シンポジウムのご報告	2
PSJシンポジウム(IUPS 2009, 京都)の成功を祝して	2
理事会・委員会報告	2
リレーエッセイ2 中山晋介	3
リレーエッセイ特別篇 佐々木巖	3
研究員募集(U. Massachusetts)	4
国際シンポジウム「平滑筋のリズム」の御案内	4
学術集会・研究会日程	4

日本平滑筋学会ご入会のお誘い
 本会は平滑筋にかかわる基礎・臨床研究者が集う日本医学会所属学会です。英文機関誌Journal of Smooth Muscle Researchは“IF相当値”が3前後で、国際的にも評価されています。学術集会では優秀発表を学会賞として表彰しています。皆様のご入会をお待ち申し上げます(E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp)。

第51回日本平滑筋学会総会ならびに国際平滑筋シンポジウムの御報告

名古屋市立大学医学部生理学教室 鈴木 光

第51回日本平滑筋学会総会は平成21年7月21-23日、名古屋市立大学医学部において開催されました。豚インフルエンザの流行などがあり、開催の可否も直前まで不明でしたが、名古屋市立大学に在る平滑筋学会会員や大学院生、学部学生が積極的に運営に参加してくれ、また会員の先生方もご協力くださいましたので、お陰で盛会にすることが出来ました。

日本平滑筋学会総会は昨年で50年という一つの節目を通過しましたので、本総会は「原点に立ち返り、平滑筋研究の基礎と臨床について考え直す機会」にしました。臨床系研究者の参加がやや少なめでしたが、一般口演の枠を増やしたことにより多種多様な演題が集まりました。また、本総会では若手研究者に「優秀演題賞」を出すことにしたところ、これまでに若手研究者の発表数が増え、学会総会には一般に多くの会員には人気が無いのですが、我が国の平滑筋研究を盛んにするためには平滑筋研究の啓蒙も大事であると考え、「ランチオン総会」を企画いたしました。総会では栗山熙賞やベストダウンロード賞などで受賞された先生方は満座の拍

手で祝福され、満足度が多少なりとも上がったように思いましたので、こうした試みは若い平滑筋研究者数増加につながるとは思います。

本総会の直後には国際シンポジウム "Postgenomic Advances in Smooth Muscle Physiology" が3日間にわたり開催されました。この国際シンポジウムは第86回国際生理学会(京都市)の一環として開催されましたが、主に平滑筋の生理学的研究分野での最先端の成果を多く網羅し、会員にとっては得がたい好機でありました。シンポジウムは平滑筋の収縮タンパク制御機構、平滑筋の興奮—収縮連関に関連する細胞内情報伝達系、細胞間情報伝達機構、イオンチャネルの機構、平滑筋の液性調節と病態に関する話題など、臨床的にも興味ある6つの話題について行われました。ポスター展示も行い、参加者の交流会も兼ねて、飲食(軽食とビール)しながら Scienceを語る事ができるように配慮したところ、参加者には概ね好評でした。こうした試みは平滑筋学会でも取り入れていいたら、会員交流をより促進できるのではないかと思います。

第36回国際生理学会大会(7/27-8/1/2009、京都)でのPSJ(日本生理学会)シンポジウム

「ユビキタスペースメカ」の成功を祝して

奈良県立医科大学生理学第二講座 高木 都

Commission V Secretion & Absorption				
PSJ-V-3 The Japan Society of Smooth Muscle Research	Ubiquitous pacemaker cells	Chairperson1	Miyako Takaki	Japan
		Chairperson2	Hikaru Suzuki	Japan
		Chairperson3	Susan Wray	UK
	Calcium and electric activities in gut pacemaker cells	1	Shinsuke Nakayama	Japan
	Mechanism of initiation of calcium waves in isolated urethral pacemaker cells of the rabbit	2	Noel McHale	Ireland
	Excitability, pacemaking and calcium signals in uterine cells	3	Susan Wray	UK
	Voltage-dependent sensor that coordinates pacemaker activity in coupled networks of interstitial cells of Cajal	4	Kenton M. Sanders	USA
Pharmacological action on gut motor activity through interstitial cells of Cajal.	5	Jan D Huizinga	Canada	
Spontaneous activity in gut-like organ formed from es cells	6	Miyako Takaki	Japan	

第36回国際生理学会大会大成功裏に終了しましたが、日本平滑筋学会のご支援を頂いた、大会2日目午前中のPSJシンポジウム「ユビキタスペースメカ」は、上記の通り開催しました。シンポには沢山の聴衆の御参加をいただき、議論も非常に活発になされ、企画者一同多めに喜んでおります。この成功によって、ユビキタスペースメカの研究において新たな一歩を踏み出すことができたのではないかと思います。ここに、日本平滑筋学会のご支援に感謝いたすと共に、今後も世界の研究者と競い合いながら、さらに日本の若い研究者の参加を募りながら「ユビキタスペースメカ」の研究を進めていきたいと切に願っております。

理事会・委員会報告

(平成21年7月21日 於 名古屋国際センタービル)

- 庶務報告
 - 1) 会員構成: 個人会員458名(基礎34%, 臨床54%, 他11%), 新入会者29名(基礎17名, 臨床11名, 他1名)、退会者27名(基礎7名, 臨床14名, 他3名)、図書館会員18団体
 - 2) 第50回総会参加者数: 350名
 - 3) 学会雑誌発行: 英文誌 J Smooth Musc Res 44巻(1号550部, 2号498部, 3&4号498部, 5号498部, 6号512部)、邦文誌: 日本平滑筋学会雑誌12巻(1号559部, 2・3号498部)
 - 4) 会費納入者: 納入率が過去3年間65-70%の推移でほぼ横ばい。
 - 5) 物故会員報告: 以下の2名の名誉会員の先生に黙祷を捧げた。
三輪 剛先生(海老名総合病院)、渡辺 穰先生(名古屋市立大学)
- 財務報告

平成20年度会計報告、平成21年度予算案を審議の結果承認。
- J Smooth Muscle Res編集委員会報告(鈴木編集委員長)
- 平成20年度ベストダウンロード賞報告(鈴木編集委員長)
- 平成21年度栗山熙賞受賞者選考結果(本郷選考委員長)
石川学氏(川崎医科大学)、横山詩子氏(横浜市立大学)、Eun A Ko氏(韓国)の3名を選出したことが承認された。
- 新役員の選出
 - ・特別会員に大室 篤氏(宝塚第一病院)が承認された。
 - ・平成22年の第52回総会開催について(佐々木次期会長)平成22年6月30日~7月2日に仙台市で開催予定の報告があった。
 - ・新評議員選出: 以下の5名が新評議員として承認された: 大矢進氏(名古屋市立大学)、神谷 武氏(名古屋市立大学)、小西真人氏(東京医科大学)、吉田正貴氏(熊本大学)、渡辺賢氏(東京医科大学)
 - ・第52回総会副会長選挙候補者(第53回総会会長予定者)の選出: 評議員会の投票により鎌田勝雄先生(星薬科大学)を選出した。
 - 7. 学会中期計画について: 今後の本学会の活性化が検討された。

- 1) ニュースレター発行: 年2回(春・秋)発行で次回は3、4号の予定。
- 2) 学会賞設置: 本年から受賞者には下記の賞金を授与されることとなった: 学会雑誌投稿論文2編(基礎・臨床; 賞金10万円)、総会発表演題5編(賞金5万円)*、ダウンロード賞2編(賞金5万円)
* 若手演者の総会での発表を理事が採点し、優秀演題賞受賞者を選出。
- 3) 各委員会より: 庶務委員会(森田委員長)、財務委員会(春間委員長)、広報委員会(高木委員長)、あり方委員会(今泉委員長)、学会賞準備委員会(本郷委員長)

Journal of Smooth Muscle Research(1-32巻)著者の方へ—著作権移譲をおみとめください—

詳しくは学会HP「日本平滑筋学会雑誌」全巻全号電子アーカイブ化に伴う著作権移譲に関する告知(お問い合わせ): <http://www.soc.nii.ac.jp/jsmr/copy-right.html> をご覧ください。御了解頂けない場合には、平成21年12月31日までに本会事務局に文書でお申し出下さい。

リレーエッセイ2 9月16日夜、所感。

名古屋大学・大学院医学系研究科・細胞生理学 中山 晋介

本日、2009年9月16日夜。ビールを飲みながら、テレビを眺めながら、このエッセイを書いています。

こうなってしまうことは、歴史の必然か？ニュース番組などでも、ずいぶん前から予想していました。ですから、ほんとに、ようやく来たという感じですね。イチローの9年連続200安打もさることながら、この3-4年間は、新しい社会への期待のために長く感じられた方も多かったのではと想像します。

ところで、この新しい内閣。総務、郵政問題などを担当される方々は、口々に地方分権、地域重視を表明されます。いい人達ですね？(いい人とは、どうでもよいか、都合がよい人とも云われますが)

いまの生命科学分野では、日本では特にでしょうか、霞ヶ関の地方統治のごとく、脳神経系研究に大きなウェイトが置かれ、巨額の研究費が流れてるみたいですね。おそらく彼らは、「中枢(霞ヶ関)神経から伝わる一つ一つのインパルス(通達)によって、体の細部・指の先まで精密にコントロールすることが体の基本メカニズム(国家の基本)」と考えてるのでしょうか。ん。それって、要するに体性神経の話ですよ。

もしかすると、私たち平滑筋学会が扱っている消化管などにおいて、効果器細部で起こる一つ一つの収縮・弛緩も同じようなメカニズムと考えられてる？

とん一でもない誤解だな。。

あ、そうか。体性神経とは55年体制だ？。そうすると、生理学の講義では、動物系の神経支配は「体制神経」系と書くと、学生さんたちはみんなよく意味が分かるかもしれませんね。これ、文科省の用語集にも加えてもらえませんか？でも、試験で漢字の書き間違いが

増えるだけか。

もしかして二大政党制って、交感神経と副交感神経による自律神経系支配システム(二重支配、拮抗支配)のこと???? もう一つ、自律神経機構の特徴に、トーンズというものがありましたね。体の自律神経系に属する臓器組織での調節に関して、一方の神経系、例えば、交感神経が優位(与党)で多くのインパルスを与えていたとしても、もう一方(野党)の副交感神経もある程度のインパルス頻度を保ち、緊張を持って調節が行われること。すると、今後、国会のヤジはトーンズの産物？

お役所の方々にも、生理学の講義をしてあげた方がいいかもしれませんね。「体制神経」は、もう古い!!!。(外需から内需へ転換するため?)時代は、二大政党制/自律神経系(植物系機能)メカニズムを欲している。その中で地方分権・地域主権の中心を構築するのは、各自治体である臓器・組織においてネットワーク状に存在する特殊ペースメーカー細胞群(Cajal細胞/Cajal類似細胞)である。この新規細胞群の機能・存在意義は、いわば自治体・地域の中で少し活発な町内会の世話役や地域ボランティアのネットワーク・コミュニティであり、揺らぎながらも全体として調和をとり、生命(社会)活動を円滑に保っている。私たちは、生体各所に存在するこの特殊ペースメーカー細胞群を体系化し作動メカニズムを探求する新たな学問分野を創世しようとしている。あなた方は、この価値ある研究題材を取り上げ、大きなプロジェクトとして育てるべきである!!!!?

こんだけ言ったら、私たちに研究費、たくさんくれないでしょうか? かえってペテン師みたいかあ?? ずいぶんビール飲んだな。。。夜も更けてます。

それでは、新しい社会制度発足とともに、今後、平滑筋学会とユビキタスペースメーカー研究が、大いに盛んになりますように。

リレーエッセイ特別篇

東北大学大学院・生体調節外科学分野 佐々木 巖

ニュースレターでリレーエッセイが始まり楽しみにしている。高木広報委員長から、理事長も特別篇として何でも良いから書け、とお誘いを受けたので、小生が外科医として「エッセイ」というものを知る機会となった出来事などを紹介します。

エッセイとは、思索や意見、感想などを形式にとらわれず簡単に述べた文学のジャンルでフランス語ではessaiと辞書にある。16世紀後半においてモンテーニュが長年にわたり日記のように記述した「随想録」を発表し、近代の西欧思想形成に大きな役割を果たしたのが始まりと考えられており、日本にもモンテーニュを紹介した研究者が数多い。私の知る東北大学文学部名誉教授の原先生はその一人で、モンテーニュの随想録の日本語翻訳を出版している。ある時小生の外来受診をされた時に先生が書かれた岩波文庫の全6巻と岩波新書の「随想録」の紹介・解説本を持って来て下さった。「モンテーニュが書いた随想録は生涯にわたり書き上げたもので、その都度視点も結論も異なることが在る。何処から読んでもいいから、また時々時間を見つけていつまでかかっても良いからお読み下さい」と言うことであった。岩波新書の解説書は先生の研究成果をもとに実によく書かれた内容であり、「随想録」を読まなくてもその内容が伝わってくる程のものである。多くの若い方に読んでほしいと思うが、先生が亡くなられて絶版となっているのは実に惜しい限りである。医学教育には全人的な教育も必要であり、先生の書かれた解説書は教材の一つとして大いに役立つと思っている。「随想録」の全書は、先生のお言葉に甘えて忙しい時間の間を見つけて時々開いて読んでいるが、その都度鋭い観察力と深い思索、それに世俗的な興味にも出会うこともあり、誠に何処から読んで面白いことの発見を楽しむことができる。モンテーニュは良家の出身で幼少から特別な英才教育を受け、母国語よりもラテン語やギリシャ語に当時の誰よりも堪能であった。そのため、古代の名著を尽く深く理解しており、「随想録」にはそれらの事柄を引用した言葉が数多く散りばめられていて興味深い。西欧文化のルーツを探り、医学・医療の成り立ちを想い計ることも可能と思われる。ついでながら新渡戸稲造著書の英文書「武士

道」にも「随想録」にあるような西欧文化に精通していなければ到底書けないと思われる表現が数多い。モンテーニュの生きていた頃に欧州ではペストが猛威を震い、実に多くの人が亡くなり、その死の現場に彼も遭遇している。当時の医療は無力で、「伝染病」という疾患概念も確立しておらず、病からくる死を当然のこととして受け止めるしか無い状況でもあった。資産家や貴族のようにジタバタせず、静寂の中で家族に見送られる農夫の様子を現在の緩和医療の原点とおもわれるような捉え方で記述している。そのような経験があつてのことか、科学的思想家のモンテーニュは医者嫌いというところがあつたようだ。その後、近代医学は18世紀頃から今日まで急速に進歩し、麻酔法や抗生物質が開発され、現在は臓器移植が普及して分子生物学的製剤が保険適応される時代になっている。現代にモンテーニュが生きていればどんな随想を記録するか・・・、という期待と疑問が浮き上がってくる。様々な自然科学が一斉に花開き、我が平滑筋学会は基礎・臨床・そして医学以外の生物学的領域からも研究発表を行う学会として成長している。複数の視点を持つモンテーニュは果たしてどんな示唆をくれるのだろうか? 多分、「自分で見つけなさい・・・」と言うだろうと想像するところである。

一方、小生の専門である外科学は古代ギリシャの聖人ヒポクラテスの後は中世期まで暗黒時代が続き、パレになって始めて現代の医療に通じる門戸が開かれた。ちなみに、パレは裕福でない家庭で育ったため、当時医学教育に必須だったラテン語の勉強をすることが出来なかったが、そのことが幸いして暗黒時代の常識にとらわれず独自に理想的な外科治療を開始して大きな成果を得ることが出来た・・・と教科書にごく短く記載されている。当時の医学標準語のラテン語でない彼の著書の「大外科学」はその後世界の各国の言語に訳されて世界に広まり、我が国にもオランダ語の翻訳が伝わり世界を変えたのは愉快でもある。既成概念や社会の偏見にとらわれず、またそれを媒体する語学だけにとらわれず、真理を求めるといふことの重要性をパレは実践して教えてくれたようにも思う。外科医としては、欧州での学会に参加する機会を利用して、いつかはパレやモンテーニュの足跡をフランスの歴史館に尋ねる時間をとりたいと思っている。(リレーエッセイ開始にあたり、佐々木理事長にも一會員として自由な立場でエッセイをご執筆頂きました:広報委員会)

研究員の募集

University of Massachusetts School of Medicine の生理学 Cell Motility and Contractility Group では研究員を募集しています。研究内容は(1)平滑筋収縮におけるシナル伝達機構の解明: 血管、気管、消化管平滑筋の収縮制御メカニズム、(2) モータータンパクの分子機能および調節機構の分子レベル/細胞レベルにおける解析、です。

(1)では、small G-protein, cyclic nucleotides, protein kinases/phosphatases などのシグナル伝達機構を研究します。分子生物学、生化学及び、共焦点顕微鏡を使ったliving cell 画像解析を行います。全反射蛍光顕微鏡を使った Single Molecule レベルでの分子の動的解析も行います。Muscle の張力測定を行いますので、張力測定の経験の或る方を歓迎します。

(2)では、モータータンパクの細胞内輸送あるいは細胞骨格構造の変化における機能を研究します。タンパク生化学、細胞生物学、分子生物学、および生物物理の手法を使います。細胞内構造の顕微鏡を使った解析、イメージングを多用しますので、この分野の経験の或る方、或はタンパク生化学の経験の或る方を歓迎いたします。両方のプロジェクトでは、Transgenic/KO mouse動物モデルを使用します。興味のある方は下記までご連絡ください。

Mitsuo Ikebe, Professor of Physiology
FAX: 508-856-4600 E-mail: Mitsuo.Ikebe@umassmed.edu

国際シンポジウム「平滑筋のリズム」の御案内

多くの平滑筋は自動運動していますが、その発生機構は未知なことが多く、平滑筋研究者の注意を集めています。消化管平滑筋では、平滑筋組織間に分布するカハールの介在細胞 (Interstitial cells of Cajal) が自動運動の歩調とり細胞として機能していることがあきらかになりつつあります。しかし、他の臓器(膀胱、子宮、尿道、腎盂、リンパ管など)に分布する平滑筋の自発活動については、必ずしも消化管平滑筋と同じでないような知見が得られつつあります。

この国際シンポジウムは第6回International Symposium on Interstitial Cells of Cajalとして、以下のように開催いたします。シンポジウムの概要につきましては、ホームページ(<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/physiol1.dir/icc/>)をご覧ください。平滑筋のリズムに興味をお持ちの方の参加を歓迎いたします。参加希望の方はシンポジウム事務局まで御連絡下さい。

日時 平成22年(2010年)2月8日(月)~10日(水)

場所 ワールドコンベンションセンターサミット

・フェニックス・シーガイア・リゾート内(宮崎市)

事務局 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1

名古屋市立大学医学部細胞生理学 橋谷 光

TEL: 052-853-8131 FAX: 052-842-1538

E-mail: hasitani@med.nagoya-cu.ac.jp

学術集会・研究会予定

集会名称	日程	開催場所	問合せ先
国際シンポジウム「平滑筋のリズム」	2010/2/8-10	宮崎市(ワールドコンベンションサミット)	名市大・医・細胞生理・橋谷 光 E-mail: hasitani@med.nagoya-cu.ac.jp
第52回日本平滑筋学会総会	2010/6/30-7/2	仙台市(アエル仙台)	東北大学病院・胃腸外科秘書・秋田恵音 E-mail: eakita@surg1.med.tohoku.ac.jp
第53回日本平滑筋学会総会	2011年(未定)	東京都(未定)	